

杉村芳美教授略歴・著作目録

雑誌名	甲南経済学論集
巻	57
号	3・4
ページ	xix-xxxvi
発行年	2017-03-30
URL	http://id.nii.ac.jp/1260/00002380/

杉村芳美教授 略歴・著作目録

杉村芳美教授略歴

1948（昭和23）年4月19日、京都府に生まれる

学 歴

1971（昭和46）年6月	東京大学経済学部経済学科	卒業
1973（昭和48）年6月	東京大学大学院経済学研究科	修士課程 修了
1976（昭和51）年3月	東京大学大学院経済学研究科	博士課程 単位取得
1978（昭和53）年3月	東京大学大学院経済学研究科	博士課程 退学

職 歴

1979（昭和54）年4月1日～1981（昭和56）年3月31日	甲南大学	講師
1981（昭和56）年4月1日～1987（昭和62）年3月31日	甲南大学	助教授
1987（昭和62）年4月1日～現在	甲南大学	教授

甲南学園における役職

1998（平成10）年4月1日～2002（平成14）年3月31日	甲南大学学長補佐
2002（平成14）年4月1日～2004（平成16）年3月31日	甲南大学副学長 理事（常任・5号） 評議員（3号）
2003（平成15）年4月1日～2004（平成16）年3月31日	甲南大学大学企画 室長

2004（平成16）年4月1日～2008（平成20）年3月31日 甲南大学長
理事（1号）
評議員（4号）
2012（平成24）年4月1日～2014（平成26）年6月13日 甲南大学長
理事（1号）
評議員（4号）

在外研究

1990（平成2）年8月～1991（平成3）年8月 University of Kent（UK）

所属学会

経済理論学会

賞罰

1999（平成11）年4月21日 永年勤務による表彰（20年表彰）

杉村芳美教授著作目録

単 著

1. 『職業を生きる精神——平成日本が失いしもの』 ミネルヴァ書房，2008年11月
2. 『「良い仕事」の思想——新しい仕事倫理のために』 中央公論社，1997年11月
3. 『脱近代の労働観——人間にとって労働とは何か』 ミネルヴァ書房，1990年11月

共 著

1. 『＜働く＞は、これから——成熟社会の労働を考える』（分担執筆「第1章 成熟社会で＜働く＞こと」）猪木武徳編，岩波書店，2014年2月
2. 『叢書・働くということ第1巻 働くことの意味』（分担執筆「第2章 人間にとって労働とは」）橘木俊詔編著，ミネルヴァ書房，2009年12月
3. 『中学社会 新しい公民教科書（平成13年度版）』（分担執筆「第4章 現代社会の暮らしと問題点」），扶桑社，2002年2月
4. 『阪神大震災と経済再建』（分担執筆「第5章 雇用の復興と政策課題」）藤本建夫編，勁草書房，1999年8月
5. 『市場社会論の構想』（分担執筆「第4章 現代の労働精神：精神労働と自己実現」）杉浦克己・高橋洋児編著，社会評論社，1995年11月
6. 『経済体制論 第Ⅱ巻 社会学的基礎』（分担執筆「7 社会科学と社会認識」〔西部邁と共著〕）村上泰亮・西部邁編，東洋経済新報社，1978年3月

翻 訳

1. スティーブン・コールバーグ『マックス・ヴェーバーの比較歴史社会学』（甲南大学ウェーバー研究会訳，分担 第四章三）ミネルヴァ書房，1999年3月
2. クリシャン・クマー『予言と進歩』（二階堂達郎，牧田実と共訳），文真堂，1996年11月
3. ルーイス・A・コーザー「階級」『財と社会のダイナミクス』平凡社，1987年11月
4. カール・ポラニー『大転換』（吉沢英成，野口建彦，長尾史郎と共訳）東洋経済新報社，1975年4月

論 文

1. 「“働くことは生きること”の考察」『甲南経済学論集』第55巻第3・4号，2015年3月
2. 「企業倫理の可能性」『市場社会と経済倫理：「経済倫理に関する総合的研究」』関西経済研究センター，1999年2月
3. 「企業倫理と職業倫理」『市場社会と経済倫理：「経済倫理に関する総合的研究」中間報告』関西経済研究センター，1999年1月
4. 「雇用の復興状況と分析」『都市政策』第91号，1998年4月
5. 「労働倫理の“衰退”をめぐって」『甲南経済学論集』第35巻第3・4号，1995年3月
6. 「仕事のグッドフォームを求めて」『IBM ワークライフ研究会報告書 ワークライフの転換』（第8章）1994年11月
7. 「日本からの外国人労働者——ハワイ日本人移民の労働小史」『甲南経済論集』第33巻第4号，1993年3月（『アメリカの社会と文化：移民社会ハワイの構造的分析』（甲南大学総合研究所 叢書23）1995年10月，所収）

8. 「新しい労働空間の可能性」『調査季報』115号, 横浜市企画財政局,
1993年1月
9. 「仕事と余暇の間——カンタベリーにて」『文化会議』第277号, 1992年
7月
10. 「＜サービス化＞社会の時間と労働」『商工につぼん』1988年4月
11. 「＜サービス化＞社会と労働の変貌」『甲南経済学論集』第29巻第2号,
1988年9月
12. 「ハイパー社会の＜労働＞と＜余暇＞」『エコノミックス・ツデー』1987
年夏号
13. 「労働と価値」『甲南経済学論集』第27巻第3号, 1986年12月
14. 「労働と目的」『甲南経済学論集』第27巻第1号, 1986年6月
15. 「活動と選択」『甲南経済学論集』第26巻第3号, 1986年2月
16. 「労働と言語——アソシエーション論について」『経済セミナー』1983年
3月
17. 「労働の構造——自己対象化論について」『経済セミナー』1982年12月
18. 「分業と社会（下）」『甲南経済学論集』第21巻第3号, 1980年12月
19. 「労働と意味——分業論の見地から」『経済セミナー』1980年8月
20. 「経済学と社会学」『季刊労働法・別冊第6号 現代社会学』1980年3月
21. 「分業と社会（上）」『甲南経済学論集』第20巻第1号, 1979年6月
22. 「宇野理論における社会の問題」『経済評論』1978年3月
23. 「研究ノート：経済学における交換と社会」『経済評論』1977年6月
24. 「社会と経済認識——K・ポラニーの方法をめぐる」『季刊現代経済』
18号, 1975年6月

評 論

1. 「使命の国と支援の国の距離」『発言者』120号, 2004年4月

2. 「成熟と未熟を分かち文化」『発言者』115号, 2003年11月
3. 「消防士の殉職に思う」『発言者』113号, 2003年9月
4. 「SARSの拡大と社会の自己防衛」『発言者』111号, 2003年7月
5. 「職業意識の教育は可能か」『発言者』110号, 2003年6月
6. 「賃金の伸縮と社会の選択」『発言者』107号, 2003年3月
7. 「国家にリストラはない」『発言者』106号, 2003年2月
8. 「企業不祥事－責任の負い方」『発言者』103号, 2002年11月
9. 「米国の失態－孤独の選択」『発言者』102号, 2002年10月
10. 「米企業不正の文脈」『発言者』101号, 2002年9月
11. 「世界と遭遇できるか－W杯騒ぎの有事感覚」『発言者』99号, 2002年7月
12. 「地域の活力を引き出すもの」『発言者』97号, 2002年5月
13. 「政府のものは政府に」『発言者』95号, 2002年3月
14. 「ワークシェアリングがシェアするもの」『発言者』94号, 2002年2月
15. 「新しい宗教戦争の時代に」『発言者』93号, 2002年1月
16. 「セーフティネットに投げ込まれるもの」『発言者』91号, 2001年11月
17. 「グローバリズムの先にあるもの」『発言者』90号, 2001年10月
18. 「大阪五輪の幻と国民意識」『発言者』89号, 2001年9月
19. 「中抜き政治の行方」『発言者』88号, 2001年8月
20. 「歴史教科書という歴史教材」『発言者』87号, 2001年7月
21. 「ゆだん大敵－危機意識の管理」『発言者』85号, 2001年5月
22. 「“金持ち父さん”には成らない国」『発言者』84号, 2001年4月
23. 「技術の戦略か生の戦略か」『発言者』83号, 2001年3月
24. 「言論の回復と会議制度」『発言者』81号, 2001年1月
25. 「スポーツの教育性」『発言者』80号, 2000年12月
26. 「社会精神のための教育課題」『発言者』79号, 2000年11月

27. 「“それ” (it) は最強の力なのか」『発言者』78号, 2000年10月
28. 「説明責任より説得責任」『発言者』77号, 2000年9月
29. 「個人の物語形成は可能か」『発言者』76号, 2000年8月
30. 「言語力なきリテラシーの無力」『発言者』74号, 2000年6月
31. 「専門職集団の惰性と自閉」『発言者』73号, 2000年5月
32. 「“個の確立” は公を創出するか」『発言者』72号, 2000年4月
33. 「輝きなき勤勉のミレニアニウム」『発言者』71号, 2000年3月
34. 「“技術大国” 日本の反省」『発言者』69号, 2000年1月
35. 「職業選択の倫理性」『発言者』68号, 1999年12月
36. 「雇用創出とベンチャー精神」『発言者』67号, 1999年11月
37. 「職業人自殺者の生きがい」『発言者』66号, 1999年10月
38. 「“自己制限” と生の教育」『発言者』65号, 1999年9月
39. 「失業が失うもの」『発言者』64号, 1999年8月
40. 「生きることと戦うこと」『発言者』63号, 1999年7月
41. 「2000年問題の意味」『発言者』62号, 1999年6月
42. 「“自分” 意識はいかにして揚棄されるか」『発言者』61号, 1999年5月
43. 「全体意識と国家」『発言者』59号, 1999年3月
44. 「“神戸空港” の運命－地方都市のアイデンティティ」『発言者』58号,
1999年2月
45. 「商品券政策の政治マインド」『発言者』57号, 1999年1月
46. 「職業的倫理と心の構え」『発言者』56号, 1998年12月
47. 「モノづくり国家に欠けているもの」『発言者』55号, 1998年11月
48. 「文化がシフトする先」『発言者』54号, 1998年10月
49. 「自己責任時代と無責任」『発言者』53号, 1998年9月
50. 「ヨーロッパ, 異なる個人主義」『発言者』52号, 1998年8月
51. 「精神的報酬の生む活力」『発言者』51号, 1998年7月

52. 「職業体験に教育力はあるか」『発言者』50号, 1998年6月
53. 「創られる労働の新ルール」『発言者』49号, 1998年5月
54. 「“無国籍”企業の倫理綱領」『発言者』48号, 1998年4月
55. 「“自主廃業”の意味するところ」『発言者』47号, 1998年3月
56. 「日本サッカーにおける国民性」『発言者』46号, 1998年2月
57. 「田園の品格をつくりだすもの」『発言者』45号, 1998年1月
58. 「“失楽園”と不倫理社会」『発言者』44号, 1997年12月
59. 「“無私の愛”はあるか——二人の聖女の“愛”をめぐって」『発言者』43号, 1997年11月
60. 「“心の教育”と精神」『発言者』42号, 1997年10月
61. 「“無償労働”論と家族の破壊」『発言者』41号, 1997年9月
62. 「共同体精神の保守」『発言者』39号, 1997年7月
63. 「脱産業都市の消費と労働」『発言者』33号, 1997年1月
64. 「情報教育が破壊するもの」『発言者』30号, 1996年10月
65. 「阪神大震災とコミュニティ」『発言者』24号, 1996年4月
66. 「勤労意識は変わるのか」『発言者』21号, 1996年1月
67. 「“高失業社会”と職業意識」『発言者』17号, 1995年9月
68. 「大震災と日本的な働き方」『発言者』13号, 1995年5月
69. 「労働倫理の空洞化—「過労死」は無駄死か」『発言者』11号, 1995年3月
70. “The Drawbacks of Putting Welfare First”, *Japan Currents*, vol. 1, No. 13
January 1998

寄稿

1. 「提言：サービス労働の再認識を」『日本労働研究雑誌』666号, 2016年1月

2. 「『ウェブ進化論』から『ウェブ時代をゆく』へ」『次の本へ』苦楽堂編, 苦楽堂, 2014年10月
3. 「学生支援の新時代」『大学と学生』第37号, 2007年1月
4. 「私立大学における建学の精神の継承」『大学時報』2006年3月
5. 「イノベーション拠点としての大学をめざして」『ひょうご経済』2005年7月
6. 「幸多き仕事へ」『兵庫教育』2005年4月
7. 「働くことが与えてくれるもの」『刑政』第111巻, 2000年10月
8. 「自己制限の教育を」『史』22号, 新しい歴史教科書をつくる会, 2000年7月
9. 「新しい時代の仕事倫理のために」『夢耕場』No. 10, 大阪生涯職業教育振興協会, 1999年3月
10. 「インターンシップと職業観の形成」『高校教育展望』小学館, 1998年12月
11. 「貢献と報酬の不一致」『賃金実務』No. 815, 産労総合研究所, 1998年6月
12. 「“良い仕事”ということ」『JIL リサーチ』1998年3月
13. 「“65歳定年制”は長期雇用の意義と仕事の意味を問うている」『週刊東洋経済』1998年4月25日
14. 「“良い仕事”には個人の責任回復がカギ」ビジネスピープルの挑戦 (広告), 『日本経済新聞』, 1998年3月24日
15. 「“仕事”の喜びとは?」『学園だより』No. 95, 甲南大学父母の会, 1998年3月16日
16. 「“良い仕事”ということ」『JIL リサーチ』No. 33, 日本労働研究機構, 1998年3月
17. 「情報教育が忘れてはならぬこと」『望星』317号, 東海教育研究所,

1996年12月

18. 「“よく学び よく遊べ”？」『教育じほう』No. 536, 東京都立教育研究所, 1992年9月
19. 「“仕事論”を」『朝日新聞』, 1992年3月19日
20. 「自著を語る：『脱近代の労働観』」甲南大学図書館報『藤棚』No. 33, 1991年4月

寄稿（会誌）

1. 「仕事と社会性16：アメリカで 参加・活動・自治（2）」『OWL』第177号, 2012年1月
2. 「仕事と社会性15：アメリカで 参加・活動・自治（1）」『OWL』第176号, 2011年11月
3. 「仕事と社会性14：アメリカで プロフェッション：専門職と公共性（2）」『OWL』第175号, 2011年10月
4. 「仕事と社会性13：アメリカで プロフェッション：専門職と公共性（1）」『OWL』第165号, 2010年10月
5. 「仕事と社会性12：アメリカで 農村から大都市へ（2）」『OWL』第164号, 2010年9月
6. 「仕事と社会性11：アメリカで 農村から大都市へ（1）」『OWL』第163号, 2010年5月
7. 「仕事と社会性10：アメリカで サービスの精神（2）」『OWL』第162号, 2009年12月
8. 「仕事と社会性9：アメリカで サービスの精神（1）」『OWL』第161号, 2009年11月
9. 「仕事と社会性8：アメリカで “安定は求めぬ”」『OWL』第160号, 2009年5月

10. 「仕事と社会性7：働くことは生きること」『OWL』第160号，2009年5月
11. 「仕事と社会性6：交換の教育（3）」『OWL』第159号，2009年3月
12. 「仕事と社会性5：交換の教育（2）」『OWL』第158号，2009年2月
13. 「仕事と社会性4：交換の教育」『OWL』第157号，2008年12月
14. 「仕事と社会性3：届いているか」『OWL』第155号，2008年8月
15. 「仕事と社会性2：視点の交換」『OWL』第156号，2008年10月
16. 「仕事と社会性1：相手の身になって」『OWL』第154号，OWL 仕事研究室，2008年7月
17. 「仕事とコミュニケーション」『OWL』103号，2004年1月
18. 「良い仕事71：変わる“大学就職部”」『OWL』第100号，2003年10月
19. 「良い仕事70：犬を連れてたご婦人」『OWL』第97号，2003年7月
20. 「良い仕事69：低価格競争に消えてゆく仕事」『OWL』第96号，2003年6月
21. 「良い仕事68：若者の“職場進出”」『OWL』第96号，2003年5月
22. 「良い仕事67：お客は偏在する」『OWL』第91号，2003年1月
23. 「良い仕事66：携帯コミュニケーション」『OWL』第88号，2002年10月
24. 「良い仕事65：縮小経済の時代に」『OWL』第87号，2002年9月
25. 「良い仕事64：祭りの後に」『OWL』第85号，2002年7月
26. 「良い仕事63：スポーツとおカネ：再びW杯に思う」『OWL』第83号，2002年5月
27. 「良い仕事62：他人事でなく，モノでなく：W杯に思う」『OWL』第82号，2002年4月
28. 「良い仕事61：サービス社会の仕事のゆくえ」『OWL』第79号，2002年1月
29. 「良い仕事60：テロ事件と職業人」『OWL』第77号，2001年11月

30. 「良い仕事59：アマチュアの社会」『OWL』第76号，2001年10月
31. 「良い仕事58：仕事をして語らしめる」『OWL』第75号，2001年9月
32. 「良い仕事57：関わり合いの技術」『OWL』第72号，2001年6月
33. 「良い仕事56：“大型連休”雑感」『OWL』第71号，2001年5月
34. 「良い仕事55：＜赦しと約束＞ブラウンさんに学んだこと」『OWL』第69号，2001年3月
35. 「良い仕事54：技術の時代に必要なもの」『OWL』第67号，2001年1月
36. 「良い仕事53：2000年＝仕事の風景 その日は来る」『OWL』第66号，2000年12月
37. 「良い仕事52：2000年＝仕事の風景 シドニー五輪語録から」『OWL』第64号，2000年10月
38. 「良い仕事51：2000年＝仕事の風景 会議の効用」『OWL』第63号，2000年9月
39. 「良い仕事50：2000年＝仕事の風景 結果か過程か」『OWL』第61号，2000年7月
40. 「良い仕事49：2000年＝仕事の風景 営業用社交性」『OWL』第60号，2000年6月
41. 「良い仕事48：2000年＝仕事の風景 ガレージセールでの交換」『OWL』第59号，2000年5月
42. 「良い仕事47：2000年＝仕事の風景 花博と若者の仕事」『OWL』第58号，2000年4月
43. 「良い仕事46：2000年＝仕事の風景 相手のある仕事」『OWL』第57号，2000年3月
44. 「良い仕事45：2000年＝仕事の風景 待つべきか，待たざるべきか」『OWL』第56号，2000年2月
45. 「良い仕事44：2000年＝仕事の風景」『OWL』第55号，2000年1月

46. 「良い仕事43：インタビューという課題」『OWL』第52号，1999年10月
47. 「良い仕事42：仕事とコミュニケーション能力」『OWL』第51号，1999年9月
48. 「良い仕事41：仕事と生きがい」『OWL』第49号，1999年7月
49. 「良い仕事40：日本語練習」『OWL』第48号，1999年6月
50. 「良い仕事39：内定率最悪の時代」『OWL』第47号，1999年5月
51. 「良い仕事38：永年勤続」『OWL』第46号，1999年4月
52. 「良い仕事37：役割演技」『OWL』第43号，1999年1月
53. 「良い仕事36：信頼を支えるもの」『OWL』第41号，1998年11月
54. 「良い仕事35：内定のあとさき」『OWL』第39号，1998年9月
55. 「良い仕事34：アウトドア二景」『OWL』第38号，1998年8月
56. 「良い仕事33：“国際的”な仕事」『OWL』第36号，1998年6月
57. 「良い仕事32：職業選択というプレッシャー」『OWL』第35号，1998年5月
58. 「良い仕事31：体験就職の意義」『OWL』第34号，1998年4月
59. 「良い仕事30：“自己分析”の季節」『OWL』第33号，1998年3月
60. 「良い仕事29：外国人監督の仕事論・組織論」『OWL』第31号，1998年1月
61. 「良い仕事28：“日本代表”の仕事」『OWL』第30号，1997年12月
62. 「良い仕事27：“無償労働”について」『OWL』第29号，1997年11月
63. 「良い仕事26：ベネディクトとトマス・アキナス」『OWL』第28号，1997年10月
64. 「良い仕事25：アウグティヌスと“修道士の労働”（続）」『OWL』第27号，1997年9月
65. 「良い仕事24：アウグティヌスと“修道士の労働”」『OWL』第26号，1997年7月

66. 「良い仕事23：聖書の労働観」『OWL』第25号，1997年6月
67. 「良い仕事22：パウロの“働きたくない者は，食べてはならない”」
『OWL』第24号，1997年5月
68. 「良い仕事21：ソクラテスと“善く生きること”（4）」『OWL』第23号，
1997年4月
69. 「良い仕事20：ソクラテスと“善く生きること”（3）」『OWL』第22号，
1997年3月
70. 「良い仕事19：ソクラテスと“善く生きること”（2）」『OWL』第21号，
1997年2月
71. 「良い仕事18：ソクラテスと“善く生きること”（1）」『OWL』第20号，
1997年1月
72. 「良い仕事17：ヘシオドスと“労働の尊さ”（続）」『OWL』第19号，1996
年12月
73. 「良い仕事16：ヘシオドスと“労働の尊さ”」『OWL』第18号，1996年11
月
74. 「良い仕事15：シュマツハーの“グッドワーク”（4）」『OWL』第17号，
1996年10月
75. 「良い仕事14：シュマツハーの“グッドワーク”（3）」『OWL』第16号，
1996年9月
76. 「良い仕事13：シュマツハーの“グッドワーク”（続）」『OWL』第15号，
1996年8月
77. 「良い仕事12：シュマツハーの“グッドワーク”」『OWL』第14号，1996
年7月
78. 「良い仕事11：ヒルティの“幸福な仕事”（続）」『OWL』第13号，1996
年6月
79. 「良い仕事10：ヒルティの“幸福な仕事”」『OWL』第12号，1996年5月

杉村芳美教授 略歴・著作目録

80. 「良い仕事 9 : ルイスの “良い仕事”」『OWL』第11号, 1996年 4 月
81. 「良い仕事 8 : 制作と実践 仕事をかたちづくるもの」『OWL』第10号,
1996年 3 月
82. 「良い仕事 7 : “社会的エコロジー” と仕事 (2)」『OWL』第 8 号, 1996
年 1 月
83. 「良い仕事 6 : “社会的エコロジー” と仕事 (1)」『OWL』第 7 号, 1995
年12月
84. 「良い仕事 5 : 仕事と “共同善”」『OWL』第 6 号, 1995年11月
85. 「良い仕事 4 : 仕事の “喜び”」『OWL』第 5 号, 1995年10月
86. 「良い仕事 3 : 職人仕事の “理想”」『OWL』第 4 号, 1995年 9 月
87. 「良い仕事 2 : モリスの “良い仕事”」『OWL』第 3 号, 1995年 7 月
88. 「良い仕事 1 : “良い仕事” について」『OWL』第 2 号, 1995年 6 月
89. 「創刊によせて: “仕事研究会” の意味」『OWL』創刊号, OWL 仕事図
書室, 1993年11月

書 評

1. ポール・ケネディ 『21世紀の難問に備えて』, 『産経新聞』, 1993年 4 月
1 日
2. 今村仁司 『労働のオントロジー』, 『エコノミスト』 1982年 4 月 6 日
3. 馬場宏二 『現代資本主義の透視』, 『経済セミナー』 1982年 2 月

総 説

1. 事典項目「ポランニー (カール)」『大百科事典』第13巻, 平凡社, 1985
年 6 月
2. 事典項目「資本主義」『大百科事典』第 6 巻, 平凡社, 1985年 3 月
3. 辞典項目「産業社会」『経済学大辞典』第 2 巻, 東洋経済新報社, 1980

年4月（村上泰亮ほかと共著）

インタビュー

1. 「『良い仕事』【good work】論をめぐって」『社会運動』vol. 245, 2000年8月
2. 「好き嫌いより良い悪いで“仕事”積極的にとらえる」『京都新聞』, 1998年2月9日
3. 「『“良い仕事”の思想』の著者に聞く」『プレジデント』1998年1月
4. 「個人も企業も“志”を」『縁』75号, 関西電力株式会社, 1997年3月
5. 「新・くらし繁盛論 過労」『縁』50号, 関西電力株式会社, 1993年1・2月
6. 「すべての面でバランスのとれた仕事が必要」『月刊企画情報』第50号, 1991年11月

座談会

1. 「労働は商品なのか？」（西部邁・杉村芳美・中野剛志・宮本光晴・富岡幸一郎）『表現者』23号, 2009年3月
2. 「市場と社会の規律：阪神大震災と秩序」（佐伯啓思・佐藤光・杉村芳美・宮本光晴）『発言者』1995年4月
3. 「働き方・NEXT STEP とは」（落合恵美子・金井壽宏・杉村芳美・清家篤・正村公宏・今田高俊）『フォーラム “働き方・NEXT STEP” 報告書』IBM ワークライフ研究会, 1993年2月

学会報告

1. 「現代の労働：精神労働と労働の精神性」経済理論学会第41回大会, 1993年10月23日

社会活動（講演）

1. 「常ニ備ヘヨ——若い人たちへ」 中山報恩会・関西地区後援会，2008年10月10日
2. 「良い仕事の思想」 良い食品づくりフォーラム加賀，2005年9月12日
3. 「公務員と職業倫理」 人事院行政研修（課長補佐級特別課程），2005年9月7日
4. 「仕事の精神的報酬」 関西生産性本部・人材開発研究会，1999年3月9日
5. 「“良い仕事”の思想」 知的生産の技術研究会・関西セミナー，1998年9月4日
6. 「『“良い仕事”の思想』に関連して」 東京海上研究所，1998年7月3日
7. 「＜良い仕事＞の思想」 21世紀への自動車社会を考える会 ‘98 FORUM，1998年3月7日
8. 「“良い仕事”を考える」 社会経済生産性本部・産業労働クラブ，1998年2月10日
9. 「技術文明と“社会進歩”」 三輪学苑・社会人セミナー，1997年11月8日
10. 「職業をめぐる歴史と現代の課題」 21世紀への自動車社会を考える ‘95 Mini FORUM，1995年6月24日
11. 「人間にとって“労働”とは何か」 D&D ヒューマンネットワーククラブ，1994年6月4日
12. 「働き方はどう変わる」 あこう市民大学講座，1993年11月23日
13. 「過労社会を考える」 全6回，朝日カルチャーセンター講座，1992年4月～6月
14. 「『脱近代の労働観』」 生活クラブ生活協同組合・生活クラブ市民主権実践講座，1992年3月14日
15. 「外国人労働者としての日本人」 歴史に学ぶ国際理解講座（赤穂市），

1992年2月27日

16. 「日本人の働きがい」 あこう市民大学講座, 1991年9月21日